

カリキュラムポリシー

九州女子大学

	大学全体	人間生活学科	栄養学科	人間発達学科人間発達学専攻	人間発達学科人間基礎学専攻
教育課程編成・実施の方針 【カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）】	<p>本学では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育科目を含めた総合共通科目は、心身ともに健康かつ文化的に豊かな人生を送るために必要な知識・技能に関わる分野の科目を配置する。 専門教育科目は、各学科・専攻の専門教育と教養教育との連携強化を図り、基本的な内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義形式の授業とともに、学生の主体的な学び（アクティブラーニング）を引き出すために少人数授業、習熟度別授業、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 海外研修や実習などの体験的な学習活動を実施する。 <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価基準に従い、単位を付与する。 各学科においては、所定の学年終了時に一定以上の修得を課すこととする。 	<p>人間生活学科では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、専門分野を3分野（衣生活、食生活、住生活）に分類させ、基礎的内容から応用・発展的内容まで体系的に学べるように科目を配置する。 専門分野の3分野の基幹科目として人間生活基礎科目を設置し、これら分野と関連づけ、目的に応じ科学的に解明できるように分野ごとに専門教育科目を配置する。 専門的な知識と技術をより深く理解するための実験・実習・演習を充実させる。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 実験・実習・演習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 卒業研究は、身につけた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな個別指導を実施する。 <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。 2年生終了時には、それまでの専門教育科目の必修科目の一定以上の修得を課すこととする。 4年間の学修成果は、卒業研究（必修）によって、総合的に評価する。 	<p>栄養学科では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、管理栄養士として必要な食と栄養および健康・福祉に関する専門的な知識と技術を体系的に学べるように科目を配置する。 専門基礎分野として「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の領域の科目を配置する。 専門分野として「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」の領域の科目を配置する。 専門的な知識と技術をより深く理解するための実験・実習を充実させる。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 管理栄養士国家試験受験資格取得を目指して外部模擬試験やe-ラーニングを導入し、きめ細やかな個別指導を行うなど、徹底した管理栄養士養成教育を実施する。 実験・実習・演習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 臨地実習は、実践活動の場での問題発見、解決を通して専門知識と技術の統合を図り、管理栄養士としての実践能力を身につける。 <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。 2年生および3年生終了時には、それまでの専門教育科目の必修科目の一定以上の修得を課すこととする。 4年間の学修成果は、卒業研究論文（必修）によって、総合的に評価する。 	<p>人間発達学専攻では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、児童発達コースと乳幼児発達コースの2コースで構成し、人間の発達に関する専門的な知識と技術を学ぶことができるように、系統的に科目を配置する。 専門教育科目は、「児童発達」、「乳幼児発達」、「特別支援教育」の3分野で構成し、基礎科目と基幹科目に区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、体系的に学べるよう科目を配置する。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 演習・実験・実習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 卒業研究論文は、身につけた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな個別指導を実施する。 <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。 2年生終了時には、それまでの配当授業科目のうち、一定以上の修得を課すこととする。 4年間の学修成果は、卒業研究論文（必修）によって、総合的に評価する。 	<p>人間基礎学専攻では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> キャリア教育科目を含めた総合共通科目を配置し、心理学、国語・書道、図書館・情報の3コースで構成し、心理学・日本文化及び情報処理等に関する実践的能力や免許・資格に関する専門的な知識と技術を学ぶことができるように科目を配置する。 専門教育科目は、「心理学」、「国語・書道」、「図書館・情報」の3分野で構成し、基礎科目と基幹科目に区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで体系的に学べるよう科目を配置する。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 演習・実験・実習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 卒業研究論文は、身につけた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな個別指導を実施する。 <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 各授業は、シラバスによってその内容と位置づけを明確にし、成績評価基準に基づき単位を付与する。 2年生終了時には、それまでの配当授業科目のうち、一定以上の修得を課すこととする。 4年間の学修成果は、卒業研究論文（必修）によって、総合的に評価する。

九州女子短期大学

	短期大学全体	子ども健康学科	専攻科 子ども健康学専攻
教育課程編成・実施の方針 【カリキュラム・ポリシー（ＣＰ）】	<p>本学では、卒業認定・学位授与の方針（D P）および修了方針に掲げる目標を達成するために、学科・専攻科ごとに教育課程を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身ともに健康かつ文化的に豊かな人生を送るために必要な知識・技能に関わる分野の科目を配置する。 「子ども」に関する幅広い専門知識と実践力を備え、基本的な内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 講義形式の授業とともに、学生の主体的な学び（アクティブラーニング）を引き出すために少人数授業、習熟度別授業、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 学外実習などの体験的な学習活動を実施する。 <p>教育評価</p> <p>各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価基準に従い、単位を付与する。</p>	<p>子ども健康学科では、卒業認定・学位授与の方針（D P）に掲げる目標を達成するために、教養教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養の習得をめざす科目群のほか協調性・自己理解力・判断力の獲得のためのキャリア支援科目を加えた教養教育科目を配置する 子どもの発達支援及び健康の維持増進に関する専門的な知識・技能を獲得するための専門教育科目を配置する。 専門教育科目は、全学共通の基礎科目と、進路に応じて「発達支援領域」、「健康支援領域」のいずれかに軸足をおきながら両領域の知識・技能を修得するよう基幹科目及び教職関連科目を配置する。 卒業研究は、保育者や教育者として必要な専門性と人間性、研究力を身につけることを目標に配置している。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 演習・実習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 「異文化交流」や「インターンシップ・プログラム」などの学外実習により体験的な学習活動を実施する。 <p>教育評価</p> <p>各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価基準に従い、単位を付与する。</p>	<p>子ども健康学専攻では、修了方針に掲げる目標を達成するために、専門的科目、専門関連科目、教職に関する専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置します。</p> <p>教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 学科の課程における「子ども」に関する学びを基礎とし、それに関連性の強い科目を配置する。 「子ども健康学特論」を主軸科目として位置づけ「子ども」に関する総合的な学習を進め、教育・保健学領域の科目において小学校就学前の子どもの成長と発達を具体的に深く学ぶ機会を作る。 小学校就学前後は、幼児から児童という発達の大きな変化がある時期で教育環境も大きく変わる。連続性のある子どもの心身の成長、発達にはこの流れを理解することが連携のとれた効果的な教育サービス提供に繋がり、極めて重要であるという意識に立ち、障がいをもつ子どものサポートを含めより高度な「子ども」に関する学びを充実させる。 社会での実践力の基礎を培うためキャリア教育の科目も充実させる。 学修成果のレポート作成に関する修了研究では、幅広い「子ども」に関する学びが効果的に反映されるような研究活動が展開できるような体制をとる。 <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 演習・実習においてはグループ学習を取り入れ、協調性を身につけるとともに、課題解決能力を育成する。 学外実習などの体験的な学習活動を実施する。 <p>教育評価</p> <p>各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価基準に従い、単位を付与する。</p>